



Unreel | ほどく
- Fragments of the Human Condition

立命館大学国際平和ミュージアム 2026年春季特別展覧会
小原一写真真展 | KG+ Special Exhibition

2026.4.3 - 7.11

立命館大学国際平和ミュージアム 2026 年春季特別展覧会
小原一真写真展 | KG+ Special Exhibition

Unreel | ほどく

- Fragments of the Human Condition

立命館大学国際平和ミュージアムでは、日本を拠点に国内外で活躍する写真家、小原一真（おばらかずま）氏の写真展を開催します。小原氏は2011年、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を機にフリーランスのフォトジャーナリストとして活動を開始しました。その後、取材過程で出会った福島第一原子力発電所で働く人々との交友をきっかけに、存在が可視化されづらい人々の記録に取り組むようになりました。現在も精力的に、戦争、核災害、感染症等の渦中で不安や痛みをかかえて生きる人々の撮影を続けています。

春季特別展覧会では、小原氏が15年間取り組んできた全プロジェクトを展示します。写真は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故、チェルノブイリ原子力発電所事故の被害者、収束作業員、ビキニ水爆実験で被ばくした漁師たち、第二次世界大戦下で被害を受けた子どもたちの戦後、ウクライナ戦争における少数民族ロマ、新型コロナウイルス感染症患者と看取り、ハンセン病回復者とその家族など、多岐にわたります。

本展のタイトルとなった「Unreel (ほどく)」は、幾重にも巻きついた糸がほどけていく様を表しています。小原氏の写真表現は、事象の背景にある見えづらい風景と、その中で積み重ねられている一人ひとりの生の断片を浮かび上がらせます。それは、過去と現在のつながりを解きほだき、私たちが見えていないかもしれない風景とこれから歩んでいく世界をつなぐ試みでもあるのです。

会場 立命館大学国際平和ミュージアム 1階 中野記念ホール
会期 2026年4月3日（金）～7月11日（土）
開館時間 9:30～16:30（入場は16:00まで）
休館日 日曜日 祝日の翌日、ただし5/31は特別無料開館

入館料（常設展見学可）

大人 400円（350円）、中学生・高校生 300円（250円）小学生 200円（150円）

*（ ）内は20名以上の団体料金、国際博物館の日（5/18）は無料公開

*立命館で学ぶ人、働く人は無料

【関連イベント】（いずれも参加無料、要入館料）

・小原一真氏によるオープニングギャラリートーク

日時 4月3日（金）10:00-10:30 / 14:00-14:30

・記憶と継承をめぐる鼎談

村本邦子（立命館大学大学院教授） | 中村江里（上智大学准教授） | 小原一真（写真家）

日時 6月6日（土）13:30-16:00

会場 立命館大学国際平和ミュージアムロビー 定員 60名

*そのほかイベント開催予定です。ウェブサイトにて決定次第ご案内いたします。

主催 立命館大学国際平和ミュージアム

特別協賛 株式会社京都新聞印刷

空間設計 小西 啓睦 (miso) | 印刷・施工 有限会社スタジオアーク

プロジェクト・コーディネーション 伊藤礼香 (Q)

小原一真（おばらかずま）

1985年岩手県生まれ。大阪府在住。写真家、ジャーナリスト。ロンドン芸術大学フォトジャーナリズム修士課程修了。災禍の中で見えなくなっていく個に焦点を当てた撮影に精力的に取り組む、アール国際写真祭、京都国際写真祭のほか、国内外の美術館や写真祭で発表。世界報道写真賞受賞、米TIME誌年間ベスト写真集選出の他、米ナショナル・ジオグラフィック協会、Fujifilm GFX Challenge Grant などから撮影助成を受ける。

【問い合わせ】

立命館大学国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

電話 075-465-8151 FAX 075-465-7899

<https://rwp-museum.jp/>



詳しくはこちら

